

ケーブルテレビと海士町の民話

酒井 董美^{ただよし}

筆者の地域には山陰ケーブルビジョン・マーブルというケーブルテレビ局があり、筆者宅でも視聴している。筆者はこのマーブルテレビに頼まれて、二年前から毎月一回「とんと昔があつたげな」なる番組に出演している。幸いこの番組はそれなりに多くの視聴者の方々から親しまれているようだ。聞くところによれば、全国30局以上のケーブルテレビ局で放映されるところになり、増える傾向にあるとも仄聞している。民話研究者を自称している筆者にとつて、人々への民話への理解と普及に役立つという意味で大いに喜んでいる。

ところで、マーブルテレビでは、海士町のケーブルテレビ局（隠岐アイランズ・メディア）の番組「海士の民話」を受けてこれも放映している。上の映像が「海士の民話15」の一部（小僧の蜂蜜なめ）で、わが家のテレビ画面を撮影したものである。

よく見ると画面の右側上部に、「海士町の民話」小僧の蜂蜜なめ」と文字が出ており、同様に左側には二行にわたり、次の言葉が出ている。「お話の中で分からない海士弁や、分かりにくい表現があれば／町内のお年寄りにお尋ねください」画面下には、「海士町の民話・伝承歌シリーズ／民話研究の酒井董美さんが昭和45年（正確には昭和50年）に隠岐島前高校郷土部の生徒たちと一緒に収録した民話の音声記録を番組化した。」と記されている。イラスト作者名は出て来ないが、同町出身の福本隆男氏なのは明瞭である。

この話が終わったところで出る画面は、「海士町の民話19「小僧の蜂蜜なめ」／語り手前田トメ 大正3年生まれ／聞き手 濱谷深希 池田百合香／録音 昭和51年（1976年）6月12日／動画制作 隠岐アイランズ・メディア」となっているのである。筆者が県立隠岐島前高校に勤務して活動していた半世紀前の記録であり、これらは無形民俗文化財だと思ひ、筆者たち関係者一同は、今でもそのことに誇りを持っているのであるが、それが映像化されて現地の人々に還元されるのであるから、地元のみならずも歓迎されているのに違いない。

画面からは先に記したように、一応整った説明が施されているので問題はないが、ただ一つ気にかかることがないわけではないそれは制作会社から今もって何の連絡もなく、勝手に資料を使われていることになり、そこだけは問題を感じている。美しいイラストもあるがこれについても作者の名前が出ていないのである。

金銭の要求などをするつもりは毛頭ないが、せめて事前連絡で了解を取るか、放送資料のDVDくらいは筆者やイラスト作家の福本隆男氏くらいには送ってくるのが礼儀ではないか。そんなことをふと思ったりしている筆者である。

